別紙資料２

松伏町第６次総合振興計画策定に向けて

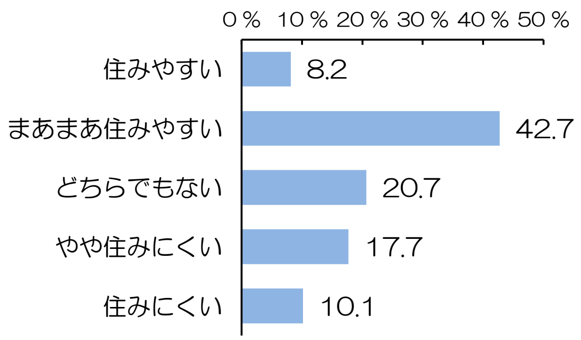
資料２

１　町民の意向

「町民意識調査」　**調査期間**：令和４年７月１日～８月10日　**対象**：満18歳以上の町民1,500人　**有効回答数**：503（郵送：321 Web：182）　**有効回答率**：33.53%

（１）住みやすさ・くらしやすさ

「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合わせた『住みやすい』は 50.9%です。これに対し、「住みにくい」と「やや住みにくい」を合わせた『住みにくい』は 27.8%です。



（２）住みやすさ・くらしやすさを感じる点（上位５位）※複数回答

６割近くが「静かである」とし、「自然環境が良く健康に過ごせる」を 20 ポイント以上上回ります。

①	静かである	58.3%
②	自然環境が良く健康に過ごせる	36.2%
③	地域をよく知っている	21.1%
④	治安が良い	15.1%
⑤	新鮮な農産物などが入手しやすい	10.3%

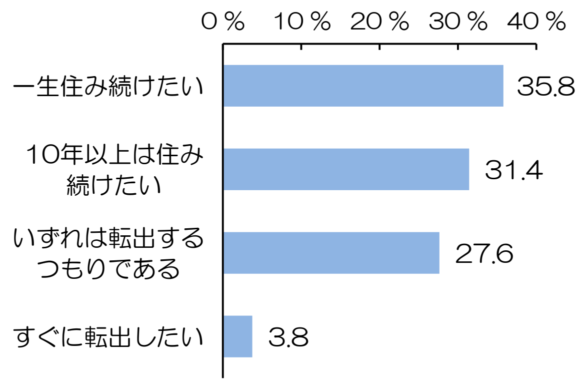
（３）住みにくさ・くらしにくさを感じる点（上位５位）※複数回答

「娯楽や食事を楽しむ場」がトップです。以下の上位は「利便性」、「医療環境」です。

①	娯楽や食事を楽しむ場が無い	47.9%
②	通勤・通学に不便である	39.4%
③	都心に出るのが不便	29.4%
④	医療環境が恵まれていない	22.9%
⑤	買い物などの日常生活が不便	20.3%

（４）定住意向

「一生住み続けたい」と「10 年以上は住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』は 67.2%、７割近くです。



（５）不満に思う施策［やや不満+不満］

【不満に思う施策】（上位５位）

①	充実した公共交通網の整備	62.4%
②	町の人口減少に対する取組	45.3%
③	安全で快適な道路環境の整備	40.2%
④	道の駅など観光振興への取組	37.8%
⑤	公共施設の整備	32.0%

不満に思う施策の上位は上記のとおりです。右記の重要だと思う施策と同様に公共交通網や人口減少対策、道路環境整備の生活基盤関連があげられます。その他には「道の駅など観光振興への取組」、「公共施設の整備」が上位にあげられています。

（６）重要だと思う施策［重要+やや重要］

【重要だと思う施策】（上位５位）

①	充実した公共交通網の整備	73.8%
②	町の人口減少に対する取組	68.2%
③	安全で快適な道路環境の整備	67.4%
④	子どもが健全に育つ環境の整備	65.8%
⑤	子どもが学習しやすい教育環境	63.2%

重要だと思う施策として、公共交通網や人口減少対策、生活基盤関連が上位にあげられています。また、「子どもが健全に育つ環境の整備」「子どもが学習しやすい教育環境」といった子育て支援関連も、重要だと思う施策の上位にあげられています。

（７）今後５年間で最も力を入れて取り組むべき施策（上位 10 位）※複数回答

「充実した公共交通網の整備」、「人口減少に対する取組」、「子育てのための支援・相談体制」と続きます。

①	充実した公共交通網の整備	42.5%
②	人口減少に対する取組	32.6%
③	子育てのための支援・相談体制	25.2%
④	安心して暮らせる環境の整備	19.5%
⑤	安全で快適な道路環境の整備	19.3%
⑥	子どもが健全に育つ環境の整備	16.5%
⑦	高齢者への支援、相談体制	15.5%
⑧	企業誘致の推進	13.3%
⑨	防災・消防・救急体制	13.1%
⑩	道の駅など観光振興への取組	12.7%

（８）10 年後どのような町になれば住み続けたいか（上位 10 位）※複数回答

トップは「鉄道やバスルートの充実など公共交通の利便性が高いまち」であり、「子育ての支援の充実や子育てする環境が整備されたまち」と続きます。

①	鉄道やバスルートの充実など公共交通の利便性が高いまち	61.0%
②	子育ての支援の充実や子育てする環境が整備されたまち	32.0%
③	大型店舗が充実した買い物に便利なまち	27.8%
④	高齢者や障がい者が健康で生きがいを持って住めるまち	26.0%
⑤	下水道、生活道路、歩道などが整備された生活しやすいまち	21.9%
⑥	消防・救急・防災体制が整った災害に強いまち	16.9%
⑦	地域と行政が協力してまちづくりを進めているまち	10.7%
⑧	各種の福祉施設が充実した福祉のまち	10.7%
⑨	道路網の整備を活用した産業振興を高めるまち	10.5%
⑩	農地や河川などの自然環境と市街地が調和したまち	9.9%

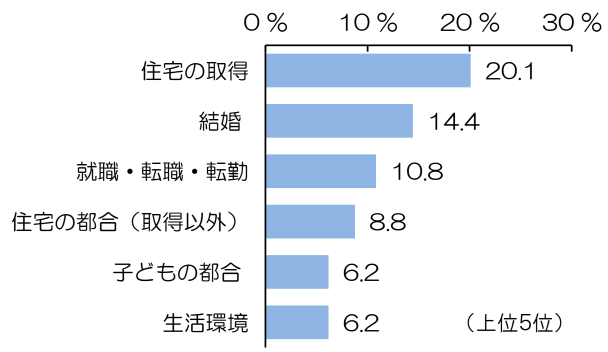
2 転入者、転出者、中学生・高校生、子育て世帯の意向

転入者

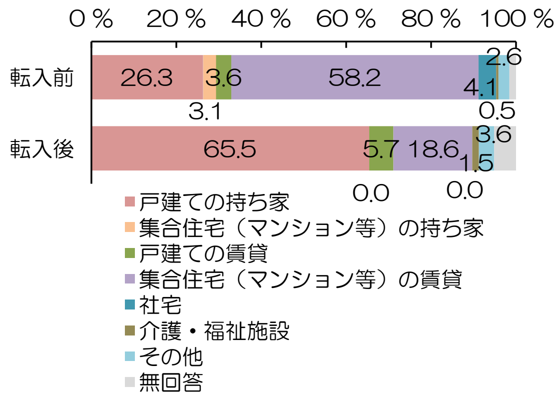
対象：令和3年3月1日～令和4年4月30日までに松伏町に転入した世帯の世帯主682人
有効回答数：194　**有効回答率**：28.44%

転入理由のトップは「住宅の取得」であり、転入後は「戸建ての持ち家」への割合が高くなっています。

〈転入の大きなきっかけ〉



〈転入する前後の居住形態〉

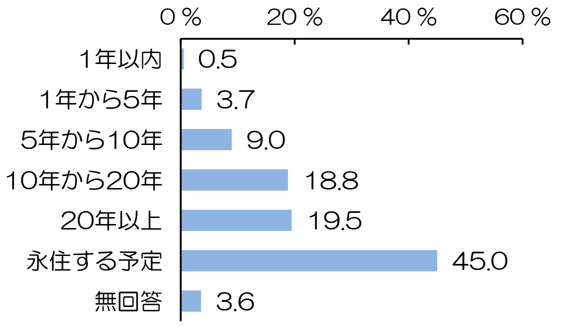


子育て世帯

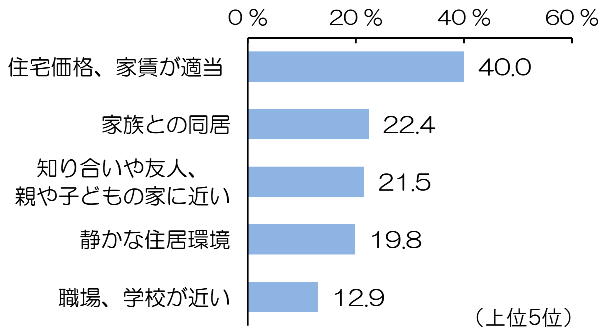
対象：松伏町の学校に通う小学生・中学生の保護者1,724人
有効回答数：982　**有効回答率**：56.96%

どのくらい町に住む予定かは「永住する予定」の割合が半数近くと高くなっています。
転入またはUターンを決めた理由は「住宅価格、家賃が適当」が2位以下を大きく引き離しています。

〈どのくらい町に住む予定か〉



〈転入またはUターンを決めた理由〉

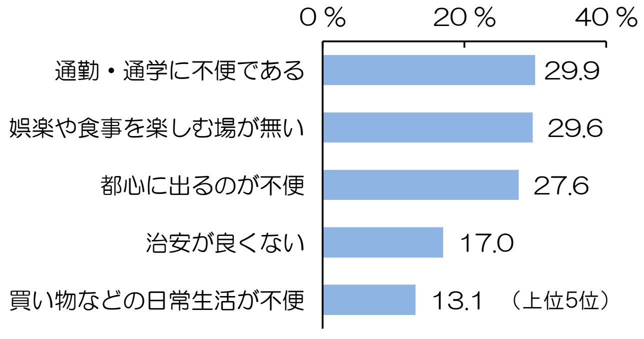


中学生・高校生

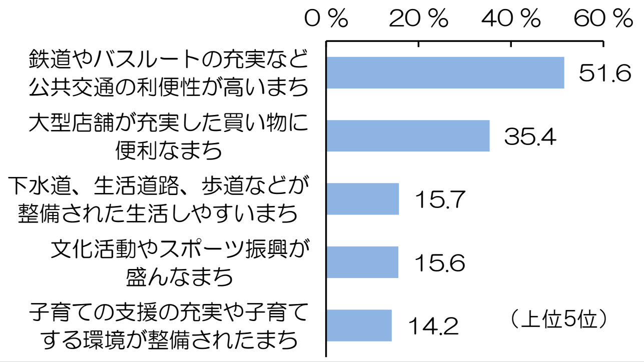
対象：松伏町の学校に通う中学2・3年生・高校生1,033人
有効回答数：865　**有効回答率**：83.73%

住みにくさを感じる点は、交通利便性の問題、娯楽や食事を楽しむ場の少なさ、買い物等日常生活の不便さなどの項目が上位となっています。10年後の町に望むことは、公共交通の利便性向上が半数を超えてトップにあげられています。

〈住みにくさを感じる点〉



〈10年後町がどうなっていれば住み続けたいか〉

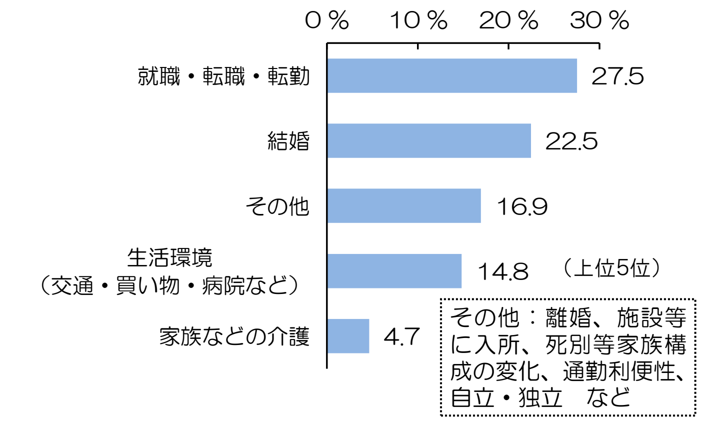


転出者

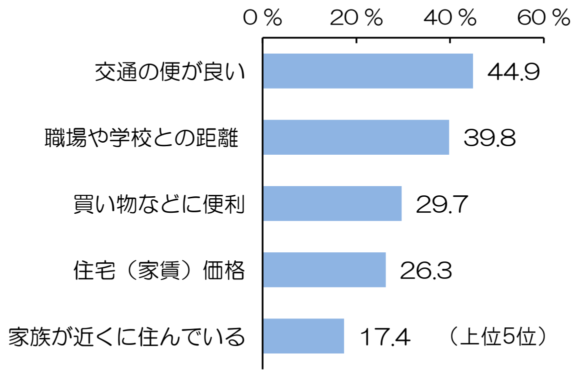
対象：松伏町から転出した世帯の世帯主841人
有効回答数：236　**有効回答率**：28.06%

転出することになったきっかけは「就職・転職・転勤」「結婚」のほか、「生活環境（交通・買い物・病院など）」も上位にあげられています。一方、転出先の住まいを選んだ理由は、交通や通勤・通学、買い物等の利便性、住宅（家賃）価格等が上位にあげられています。

〈転出することになったきっかけ〉

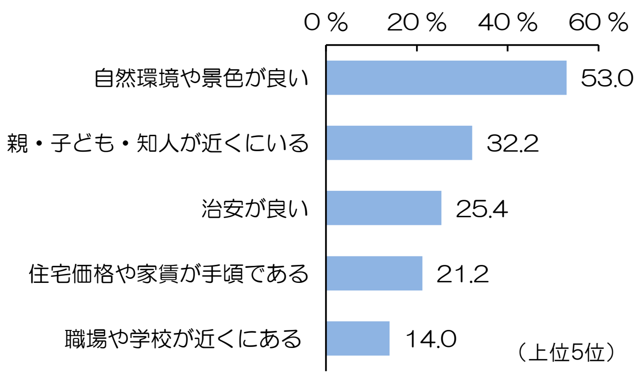


〈転出先の住まいを選んだ理由〉

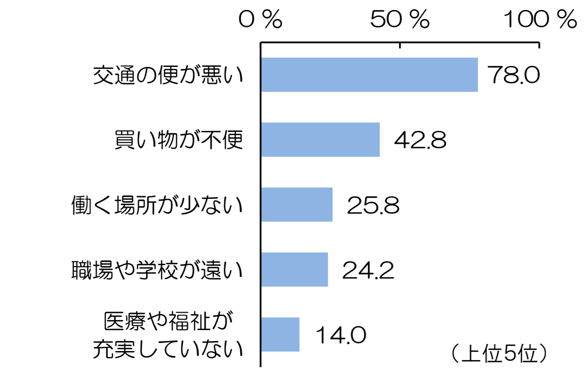


町に魅力を感じていた点は、自然環境や景色、親や子、知人が近くにいることのほか、治安の良さや住宅価格等の手頃さが上位となっています。また、松伏町に不満だった点のトップは「交通の便」「買い物が不便」など利便性に加え、「働く場所が少ない」「職場や学校が遠い」など、働くことや就業環境に関する項目が上位となっています。

〈町に魅力を感じた点〉



〈松伏町に不満だった点〉



高校生まちづくりワークショップ「高校生まつぶし未来プロジェクト」

対象：松伏町内に在住または、在学の高校生（公募）　9名
開催日時：第1回　令和4年7月28日（木）13時～17時　第2回　令和4年8月4日（木）13時～17時

内容　高校生がテーマ「ずっと住み続けたい！と思える松伏町とは？」について話し合い、意見を発表するものです。

意見

- 人を呼び込む　教育を充実させ生徒がやりたいことができる学校を作る、農業連携の老若男女楽しめるイベントを行う
- 住み続けられるために　娯楽施設を呼び込む、バス路線の充実、歩道・自転車道の整備
- 働ける場所　企業誘致、農地集約により農業法人の設立等により雇用を生み出す
- 自然豊か　豊かな自然景観、ポイ捨てのない町